

生物工学研究所第3回主要課題現地検討会（納豆用大豆）の開催

平成27年9月29日（火）、所内圃場および原種苗センターにおいて標記の検討会を開催しました。今回は納豆用大豆に関する検討会ということで、茨城県納豆商工業協同組合に加盟している納豆製造業者や集荷団体にも参加いただき、県関係者を含め計29名が出席して、納豆用小粒大豆有望系統「ひたち1号」の紹介や品種選抜システムの開発について情報提供を行いました。また、納豆の試食や品種の切り替えに対する意見交換等もあり、有意義な検討会となりました。

1 納豆用小粒大豆有望系統「ひたち1号」の紹介について（岩橋主任）

- ・納豆用として評価の高い小粒大豆品種「スズマル」に対抗する品種として、育成中の有望系統「ひたち1号」を紹介しました。
- ・「ひたち1号」は、本県で長年栽培されている「納豆小粒」と北海道の品種「スズマル」を交配した系統です。「納豆小粒」と比べ、やや多収で納豆加工適性に優れる特徴があります。
- ・圃場見学では、草丈が短く、倒伏しにくいという「ひたち1号」の特徴が確認できました。また、最下着莢位置や脱粒程度など栽培しやすさに関わる特性や、密植栽培における収量増加効果等について活発な質疑応答がありました。

2 おいしい小粒納豆を造るための品種選抜システムの開発について（岩橋主任）

- ・品種開発の早い段階から、納豆への加工適性が優れるものを選抜できるシステムの開発状況を紹介しました。
- ・このシステムは、選抜段階の豆の硬さや色等を機械で測定し、その数値から納豆にした場合の食味官能試験の評価結果を推定できるようにするものです。
- ・本研究は、県納豆商工業協同組合、県工業技術センターと共同で取り組んでいます。

3 有望系統の納豆試食、新品种の導入等について（小山田専技）

- ・「ひたち1号」、「スズマル」、「納豆小粒」で造った納豆を試食し、その場で評価していただきました。その結果、総合評価は「スズマル」が最も高く、次いで「ひたち1号」、「納豆小粒」の順でしたが、「ひたち1号」の味は「スズマル」と同等の評価を得ました。
- ・実需者である納豆製造業者様からは、「ひたち1号」の導入を今後進めるにあたり、いきなり品種を切り替えられると納豆の販売戦略の観点から困るので、生産計画を立てた上で、品種切り替えの際は十分に留意してほしいとの意見をいただきました。

今後も生物工学研究所では県納豆商工業協同組合や県工業技術センターと連携しながら、生産者並びに実需者の期待に応えられる、「スズマル」を超える納豆用大豆品種の育成と普及を目指します。



圃場検討のようす



納豆試食のようす